



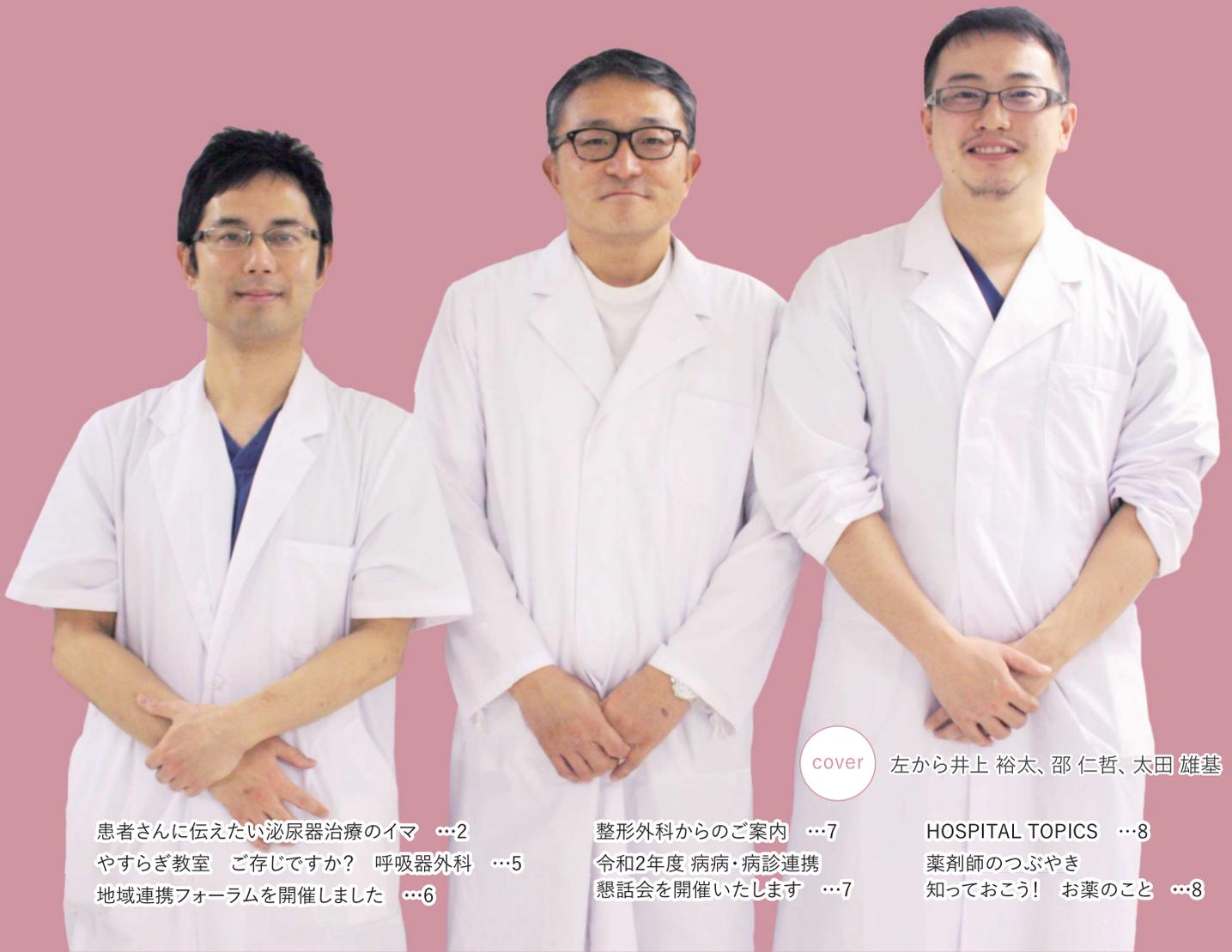
地域とつながる広報誌



やすらぎ

特集 患者さんに伝えたい

泌尿器治療のイマ



cover

左から井上 裕太、邵 仁哲、太田 雄基

患者さんに伝えたい泌尿器治療のイマ ...2

やすらぎ教室 ご存じですか? 呼吸器外科 ...5

地域連携フォーラムを開催しました ...6

整形外科からのご案内 ...7

令和2年度 病病・病診連携
懇話会を開催いたします ...7

HOSPITAL TOPICS ...8

薬剤師のつぶやき
知っておこう! お薬のこと ...8

泌尿器治療のイマ

恥ずかしい、怖い、痛い検査をされるなど、患者さんにネガティブな印象を持たれがちな泌尿器科。今号では進化を続ける泌尿器科の現場から、私たちが目指す患者さんに寄り添った治療の最前線をお伝えします。



はじめに ~増加傾向にある泌尿器疾患~

近年、高齢化社会が進み泌尿器科を受診される患者さんが増加しています。泌尿器科が取り扱う疾患は、膀胱炎や腎盂腎炎といった薬物治療のみで治療可能な内科的疾患から、がんや尿路結石症および前立腺肥大症などの薬物治療以外に手術が必要となる外科的疾患など、高齢者に多くかつ多岐にわたるのが特徴といえます。

当科の方針は、第一線の病院としてエビデンスに基づいた医療を提供することを掲げています。泌尿器科全般を扱っておりますが、中でもがん(腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん)、尿路結石症、前立腺疾患の割合も多くなっています。

検査・診断の特徴

外来での検査・診断において、できるだけ患者さんが痛みや苦痛を伴わないように心掛けています。例えば血尿を主訴に受診された患者さんに膀胱鏡の検査が必要な場合も、わずか6mmほどの柔らかい軟性ファイバーを用い、検査時の痛みをできるだけ少なくし短時間で終わるように工夫します。

また頻尿や排尿障害に対する検査においても、できるだけ導尿などの侵襲的な検査は行わず、非侵襲的な経腹エコーや尿流測定・残尿測定・排尿記録などを用いることにより、苦痛の少ない検査・診断を心掛けております。

CTやMRIなどの画像診断が必要な場合も、できるだけ患者さんの都合のよい日に合わせて調整するように配慮します。



医長 井上 裕太

入院までの流れ

診断の結果、入院治療が必要になった場合も、患者さんと相談の上、入院日や手術日を決定しています。「病院から連絡があるまで、入院がいつになるのかわからない」といった不安な思いを患者さんがされないように配慮しますので、ご安心ください。

また手術することが決まったあとは、Patient Flow Management(PFM)を通じて詳しい説明を受けていただいています。

患者さんが入院までの流れを少しでも理解しやすくするために、病院全体として努力しております。



太田 雄基

さまざまな泌尿器系疾患 治療の特徴

当科では、内視鏡治療にも積極的に取り組んでおり、腎・副腎疾患に対する腹腔鏡下治療、腎盂鏡・尿管鏡による診断・治療などに特色を有しています。

3本柱とされていた泌尿器科の治療に第4の柱が加わり、治療成績が高まりつつあります。



代表的な泌尿器系疾患と、その治療法は次のとおりとなっています。

1 前立腺がん

前立腺がんに対しては年齢、病期(stage)により治療法(手術療法、放射線療法、ホルモン療法、化学療法)を選択しています。前立腺生検数は年間約180例で、超音波ガイドの下に精度の高い生検を行っています。

2 腎がん

手術療法(開腹、腹腔鏡下)以外には、進行性腎がんに対して分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬(オプジーボ、ヤーボイ)による薬物治療、放射線療法などを行っています。可能な症例では腎機能を温存する腎部分切除(開腹、腹腔鏡下)を施行しています。

3 膀胱がん

病期により手術、膀胱内注入療法、化学療法、免疫チェックポイント阻害薬(キイトルーダ)、動注療法、放射線療法を選択しています。手術はほとんどが内視鏡手術で、浸潤性膀胱がんに対しては膀胱全摘術あるいは症例を選んで放射線療法+動注療法により膀胱温存を試みています。膀胱全摘術の際の尿路変更では、回腸利用新膀胱、回腸導管、尿管皮膚瘻を症例により選択しています。



4 尿路結石症

自然排石のない場合はESWL(体外衝撃波結石破砕術)のほかに、碎石困難例や珊瑚状結石に対してはPNL(経皮的手術)、TUL(経尿道的手術)を行っています。さらに当科では、f-TUL(軟性の内視鏡とレーザー碎石装置を用いるTUL)も導入。2016年4月以降、尿路結石症の紹介患者さんが増加し、TUL、f-TUL、PNLなどの手術件数を着実に積み重ねております。

5 前立腺肥大症

内服治療を行い、効果が十分でなければ手術を行います。当院では前立腺肥大症への低侵襲手術として「接触式前立腺レーザー治療(蒸散術:CVP)」を2018年7月より導入しました。

PICK UP

CVP(Contact laser Vaporization of the Prostate)とは?

前立腺の肥大組織に高熱を与え、組織中の水分や血液を一瞬で沸点に到達、蒸発させることで、組織を消失させてしまうという画期的な手術方法です。関西地域の病院でCVPが行えるのは、当科を含めてわずか2病院しか取り扱いがありません(2019年末時点)。

特徴として、従来の前立腺肥大症手術と同等の効果が期待できる上に、出血が確実に減少できるため、患者さんにとってより安全性の高い手術といえます。手術時間や入院期間の短縮が図れることから、早期の社会復帰も可能に。一番大きな特徴として、抗凝固薬の休薬が不要なことが挙げられ、合併症の軽減など複数の利点が報告されています。実際、当科でも2020年1月現在でCVP施行例は30例

を超えています。全例出血は少量で、手術時間も長くて1時間ほどとなっています。

部長 邵 仁 哲

低侵襲な手術が実現できることから、患者さんからも喜びの声をいただいています。

やすらぎ教室

ご存じですか? 呼吸器外科

今回教えてくれた人

呼吸器外科
部長 加藤 大志朗



「知っている診療科を挙げてください」と問われたとき、皆さんはどのくらい思い浮かべられるでしょうか? 今回は知っているようで意外と知られていない診療科の中から「呼吸器外科」について、医師が解説いたします。

呼吸器外科ってなに?

呼吸器外科という診療科には、皆さんなじみがないことと思います。それもそのはずで、患者さん自らが呼吸器外科を選んで、直接お見えになることがほぼないからです。目の調子が悪いから眼科、おなかだったら消化器内科というようには、呼吸器外科が選択肢に挙がらないのが理由かもしれません。例えば当科で扱っている病気で、皆さんが一番ご存じなのは肺が

んでしょうか、検査も受けずに「私は肺がんだと思うので診てください」という方はおられません。咳などの症状があって、あえて病院を受診されるとすれば呼吸器内科でしょう。つまり私たちを訪ねてこられるのは、何らかの検査の結果を受けて検診機関の受診を勧められる、またはかかりつけ医から紹介されるということになります。

呼吸器の手術も怖くない?

胸の手術をといわれると、まず不安な気持ちになることと思います。おなかの手術などと比べると、お知り合いに同じような治療を受けられた方も少ないでしょう。そこで私たちは、まず患者さんに安心していただくことを第一にと心掛けております。私たちが行って

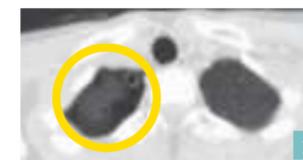
いるのは、筋肉をほとんど切ることもない胸腔鏡手術です。入院期間も1週間は長いほう。私たちにとっては一般的だと思っていましたが、今でも肋骨を切って大きく胸を開ける手術や長い入院をイメージされる患者さんも多いですね。でもだいぶ変わっております。

写真で解説

胸腔とは? 気胸ってなに?

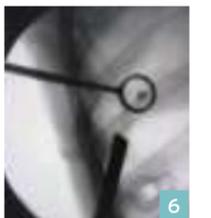
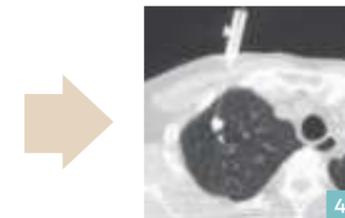
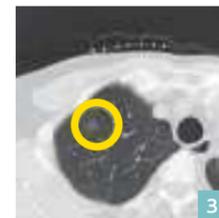


◀胸腔とは、胸の壁と肺との間にある隙間のことです。普段は矢印のような隙間があるかなんて分かりません(写真①)。



◀写真①の矢印の箇所に空気がたまることを気胸といいます。写真②では右胸が気胸の状態になっています。胸腔鏡手術では胸に数力所の穴を開けて、人工の気胸をつくって行きます。

肺がんの治療方法 ~リポドールマーキング手術とは?~



▲写真③の丸で記した淡い病変。これは大腸ポリープのような、いわゆる早期の肺がんです。大きく取らなくても再発しないのはありがたいのですが、変形する肺の中ではどこにあるか分かりません。そこでリポドールという造影剤を腫瘍のそばに注射します(写真④)。

▲その後は手術になります。造影剤をレントゲン透視で確認しながら鉗子でつかまえて切除すれば、病変も一緒に取れるため、余分に肺を切除しなくて済みます。肺は取ったら再生しませんので、大事な技術です(写真⑤⑥)。

かかりつけ医・開業医の皆さまへ

地域の第一線として、私たちはエビデンスに基づいた医療を提供しています。

当科では、尿路(腎、尿管、膀胱、尿道)、男性生殖器(精巣、精巣上体、精嚢、前立腺、陰茎)および副腎の疾患を扱っています。ガイドラインを踏まえた標準的治療を提供するように努力しており、インフォームドコンセントを十分行った上で患者さんに寄り添った治療に当たっています。

近隣のかかりつけ医や開業医の皆さまとの病診連携を図り、診察の予約や逆紹介を行っています。泌尿器科には専門医資格を持つスタッフが在籍しておりますので、お困りごとなどがございましたら、いつでもご相談ください。

地域連携フォーラムを開催しました

「地域で暮らし続ける」を支える多職種連携～心不全編～

当日のプログラム

13:30～	開会のごあいさつ 院長 小林 裕
第1部 座長:当院循環器内科副部長 松尾 あきこ	
I. 院内多職種	
13:35	1.「当院における心不全治療の現状と課題」 循環器内科医師 入江 大介
13:55	2.「心不全高齢者の在宅療養のポイント」 慢性心不全看護認定看護師 藤原 博美
14:15	3.「服薬アドヒアランス向上のためにこれから必要なこと」 薬剤師 藤田 将輝
14:25	4.「心不全患者に筋肉が必要な理由～運動療法の重要性～」 理学療法士 草木 喜尚
14:35	5.「当院での栄養指導について」 管理栄養士 松田 小百合
II. 在宅	
14:55	6.「地域で支える訪問看護の立場から」 訪問看護ステーションひろば 訪問看護認定看護師 茶谷 妙子
III. 当院連携部門	
15:15	7.「当院の医療介護連携窓口について」 地域医療連携・入退院支援室 中村 真穂
第2部 意見・情報交換会	

地域包括ケアシステムの中で、急性期病院として当院に求められることは、退院後もいかに患者さんの治療後の生活を見据え、その人らしく地域で暮らし続けられるよう支援することです。そのためには「院内多職種チームによる入退院支援」と「院外多職種との地域連携」が重要となります。

令和元年11月30日(土)、当院1回目の多職種による地域連携フォーラムを開催し、90名にご参加いただきました。院内の各職種と院外からは訪問看護師の茶谷氏をお招きして、それぞれの立場から心不全患者に対する医療の現状と課題についてお話がありました。後半の意見・情報交換会は、予定時間を1時間延長するなど、盛況ぶりがうかがえました。

「多職種の関わりが理解できた」「分かりやすかった」とのご意見を多く寄せられた一方で「退院前にもっと早く情報がほしい」「在宅の多職種のことをもっと知ってほしい」などの意見もいただきました。患者さん(生活者)のその人らしい療養生活という同じ目標に向け、お互いに顔を合わせ、話し合いを重ねていくことで、真の「連携」が可能になっていくと実感しました。本会に参加いただいたすべての皆様に、感謝いたします。

PHOTO REPORT



整形外科からのご案内



令和2年4月1日(水)より

整形外科は完全紹介予約制 となります

整形外科受診の際にご注意いただきたいこと

*緊急の場合はこの限りではありません



1 初診または前回受診から1年以上経過した患者さん

医療機関からの**紹介状**と**事前予約**が必要となります。

2 整形外科にて治療中(同一症状)で受診される患者さん

受診時または予約センターにてご相談ください。

予約がない場合は、近隣医療機関をご案内させていただく場合もございます

ご不明な点は、B棟1階**①患者サポートセンター**までお問い合わせください。

開業医の皆さまへ

令和2年度

病病・病診連携懇話会を開催いたします

当日のプログラムなど、詳細については後日改めてご案内文書を送付いたします。

日時

令和2年7月30日(木)

・懇話会 15:00～

・懇親会 17:30～

場所

京都ホテルオークラ
(京都市中京区河原町御池)

Red Cross
Activities

赤十字活動

令和元年度支部管内合同災害救護訓練に参加



令和2年1月25日(土)、京都府赤十字血液センターにおいて「令和元年度支部管内合同災害救護訓練」が開催され、当院から救護班要員9名と訓練スタッフ11名の計20名が参加しました。また、傷病者役として京都第二赤十字看護専門学校1年生が参加しました。

同訓練は、府内の赤十字施設が合同で実施する訓練で、被災地へ派遣される救護班要員などの災害対応力の向上を目的として毎年行われています。訓練は研修も交えて行われ、施設間の連携や各職種の役割などを再確認しました。



避難所・救護所訓練の様子



薬剤師のつぶやき

知っておこう!

お薬のこと...

第6回

良薬は口に苦し!?



よく知られている故事成語に「良薬は口に苦し」とあります。これは「良薬は苦くて飲みにくいですが病気には効く。よい忠告の言葉は聞くのがつらいが、身のためになる」という例えですね。もともとこれは、孔子の言行や門人との問答、論議を集めた古い中国の書物である『孔子家語』に由来します。

良薬とは、よく効く薬のこと。皆さんが普段飲んでおられる薬の中にも、苦くて飲みにくい薬がたくさんあるはずです。しかし、最近の薬にはいろいろな工夫が施されているので、実際はそれほど苦味を感じることなく薬を飲むことができます。

例えば、薬の中でも数や種類が多い「錠剤」ですが、これは薬の成分を圧縮するなどして一定の形に作られています。これによって、一定量の薬を簡単に飲むことができます。また、飲み方や使い方、作られ方によって、いろいろな

タイプの錠剤が存在します。中でも糖衣錠やフィルムコーティング錠といわれるものは、糖やフィルムで表面を覆うことで薬の成分に含まれる本来の苦味や臭いを隠し、飲みやすくしてあるのです。そのため、こういった薬を飲むときは嚙んだり砕いたりないようにしましょう。

これらは皆さんの健康を守ったり、病気を治したりするために必要な薬を、少しでも飲みやすくするための工夫です。ぜひ飲み忘れのないよう、よろしくお願いします。



薬剤部 大山翔